

中学校の活用事例 やさしい英語でSDGs！

科目：英語

教員：伊藤大輔

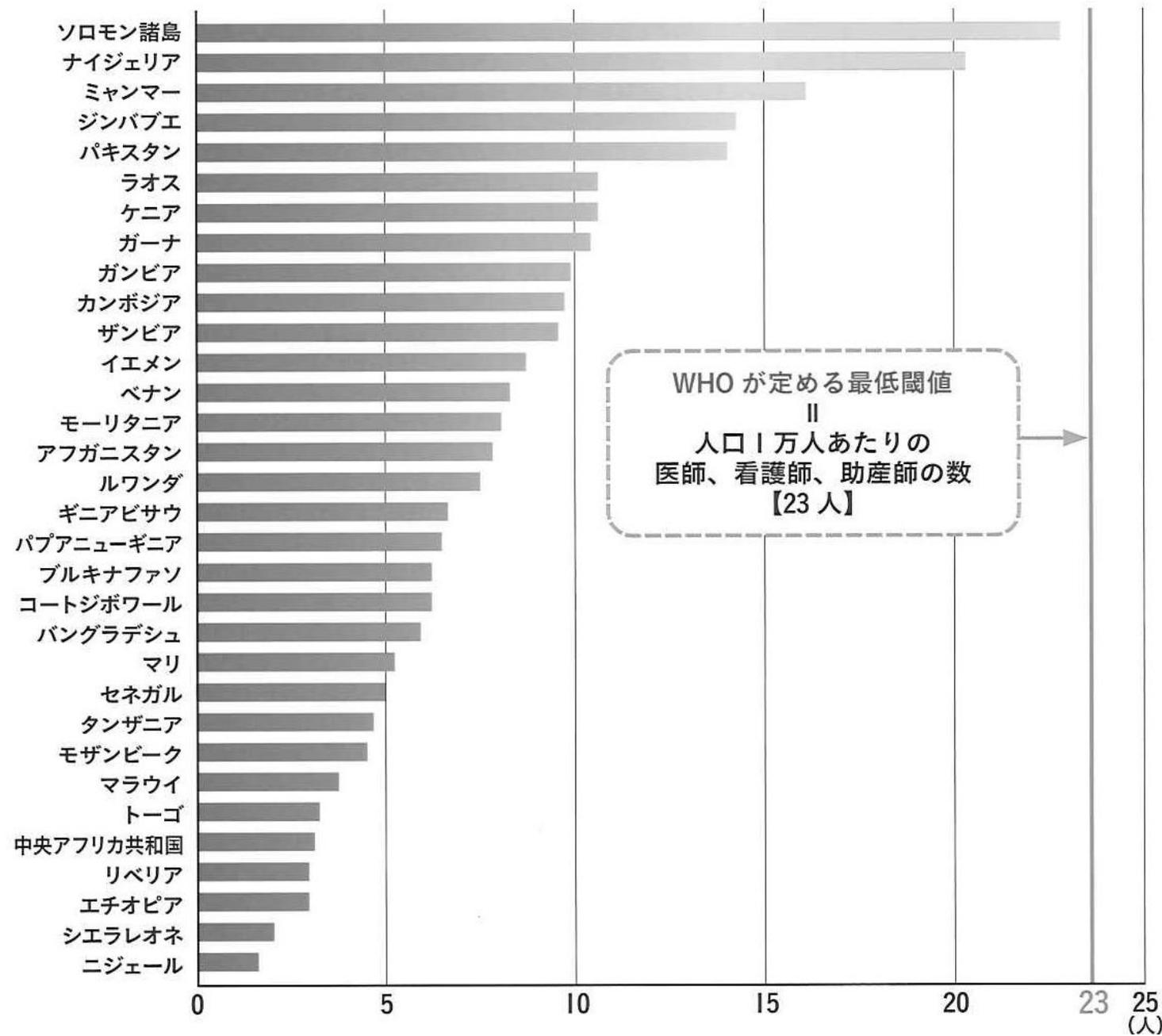
対象：中3・60名

期間：2021年9月～11月

聖学院中学校_中学3年生_英語Sコース_授業内容

内容	問いかけ（教員）
Listening	音源を生徒に2回聞かせる。
Sharing	どんな内容だったかを隣の生徒と共有するように指示する。
Answering questions (Reading)	教科書についている3つの問題をリスニング情報のみで解くように指示するが、その後本文を読んで、問題を解く。
Translation (Writing)	教科書についている2つの図や表を見せる。そこからわかることを英語に翻訳する（説明する）ように指示する。
Sharing (Speaking)	考えた英文を発表させる。
Discussion (Speaking)	その学んだ内容に沿う（SDGsにかかわる）問を生徒に投げかけ、それについて意見交換をする。

多くの国で医師・看護師が不足している



効果検証

右の図を見て英語で表現してください。

生徒のフィードバックはロイロノートにて

効果検証

- これまでのWriting指導もあり、表を読み取った上で、生徒が英語をたくさん書くことができた。
- 表を読み取って、日本語で表現したり発表したりする機会は、今までにもあったが、アウトプットを英語にすることが画期的であった。
- 日本語を介さないで、表を直接英語に直すということが刺激的だと感じる生徒がいた。また、英語を学ぶだけでなく、英語で学ぶことにつながっていく。
- 四技能を使うことによって生徒が様々な活動を行うことができた。
- SDGsという具体的なゴールを提示することによって、生徒の興味関心が深まった。
- What can you do for society?というテーマで行われたスピーチコンテストに対してのモチベーションが上がった。